



岸会長をしのぶ

岸会長は昨年 11 月以来胃潰瘍手術のため築地の癌研附属病院に入院され、手術後の経過も良好と書いておりましたが、のちに腹膜炎を併発され、去る 3 月 14 日 61 歳で逝去されました。ここに慎んで会員の皆様に御報告すると同時に、在りし日の岸会長をしのびながら御冥福をお祈りしたいと存じます。

岸会長は昭和 4 年東大工学部鉱山学科を卒業後、若き経営人として国内はもとより、遠く大陸においていくつかの経営に才腕を振るわれ、昭和 12 年には第一次近衛内閣の総理大臣秘書官としてその重責をはたされたのをはじめ、その後も官民各界の要職を重ねられました。24 年に同和鉱業株式会社副社長に迎えられ、近代企業経営の才を遺憾なく発揮され、30 年には経済同友会の代表幹事として活躍され、わが国経済界の発展のために偉大な功績を残されたのであります。

昭和 31 年 4 月に日本道路公団が創設され、初代の総裁に就任されてからは、有料道路の建設を通じてわが国の道路整備に日夜御尽力あって、その成果には世人の等しく眼をみはるものがあつたのであります。殊にわが国最初の高速道路として建設中の名神高速道路の建設にあたっては、これを昭和文化の象徴として後世に伝えるという信念をもって、設計の細部にまで眼をとおされ、御自分で現地をしばしば視察なさるなど、その御努力は並大抵のものではなかつたときいております。

これら日本の道路事業への御功績が海外にまで認められ、昭和 36 年 2 月には国際道路連盟から、わが国最初の 1960 年度ワールド・ハイウェイマンの世界的栄誉をうけられたのであります。

OR 学会には昭和 35 年 4 月から会長としてお迎えし、今日までまる 2 年間種々のお世話をいただいていたのでありますが、その御蔭で日本における OR も普及発展の一途を辿り、実際面での活動が各界から注目され、その中心として OR 学会の存在が大きく期待されるに至りましたが、その大事な時に中心人物を失ったことは何物にもかえがたい痛恨事であります。いまこそ私共は会長の御遺訓を体し、学会の発展をはかると同時に、わが国の企業経営面に OR 思想を滲透させ、ひいてはわが国の国際的発展に貢献することを御霊前に誓いたいと思えます。

ここに慎んで哀悼の意を表します。

日本オペレーションズ・リサーチ学会